



会長	齋藤 宙也	国際会長 (IP) Edward Ong (シンガポール)	監事	松島 美一
副会長	古田 和彦	“Faith, Love, Action” 「信念、愛、行動」	ブリテン	秋元 美晴
書記	古賀 健一郎	アジア太平洋地域会長 (AP) 田上 正 (熊本むさし)	担当主事	菅原 歩
会計	大高 治	“Act now with faith and love!”		
直前会長	古田 和彦	「信念と愛を持って行動しよう！」		
		東日本区理事 (RD) 山下 真 (十勝)		
		「ワイズらしさの再発見」		
		“Rediscovering Y's Uniqueness”		
		かながわ部長 (DG) 兵藤 芳朗 (鎌倉)		
		「共に歩み 交流を深め 部の「絆」を強めよう」		
		横浜クラブ会長 (CP) 齋藤 宙也		
		「信念と愛をもって行動しよう！」		

<今月の聖句>

秋元 美晴

私は、すでにそれを得たというわけではなく、すでに完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスによって捕らえられているからです。

(フィリピの信徒への手紙3章12節)

今月のひとこと

平和の鐘は鳴りつづく

古賀 健一郎



私の母校・長崎県立長崎西高等学校が、今年の第98回選抜高等学校野球大会(春の甲子園)に、75年ぶり2回目の出場を果たした。「文武両道」が評価され、「21世紀枠」での選出である。私は甲子園球場へ応援に駆けつけた。結果は初戦

敗退であったが、善戦の末の惜敗であった。もし勝利していたならば、球場に響く校歌を誇りをもち声高らかに歌っていたであろう。その思いを胸に、私は甲子園に立っていた。

原爆の爆心地から約0.8キロの地にある母校の正門前には、被爆したクスノ木が今も立っている。1945年、熱線に焼

かれながらも再生し、今日では巨木へと成長している。当時、学校は旧制中学であり、8月9日は期末試験の最中であつた。試験を終え帰途につく生徒たちを見送るその時、午前11時2分、原爆が炸裂した。向学心に燃えていた多くの若き命(約100名)が、その瞬間に奪われたのである。

高校の前を流れる浦上川——。私が三年間、通学のたびに見続けたその川には、原爆投下後、水を求めて多くの被爆者が集まり、そのまま命を落としていった。

昨年8月9日、戦後80年の節目にあたり、私はこの川のほとりで11時2分に黙祷を捧げた。長い年月を経た今も、この場所は私に平和の尊さと命の重みを問い続けている。

しかし、現代の世界はどうであろうか。平和はなお脅かされ——力による支配、暴力、専制の論理が広がり、多くの人々が不安と恐れの中に置かれている。「正義」の名のもとに繰り返される対立の中で、かけがえのない命が今も失われ続けている現実には、私たちは真摯に向き合わなければならない。

だからこそ、浦上の地に刻まれた悲しみの歴史と向き合いながら、母校の校歌——とりわけ三番の歌詞が、今、私の心に強く響いてくる。

【長崎西高校 校歌 三番】

入江は深き 新潮 (にいじお) に 世界の船の 集いきて
文化の黎明 (よあけ) あらしめし 歴史はふりず 永遠 (とこしえ) に
平和の鐘は鳴りつづく 平和の鐘は鳴りつづく
ああ美しき長崎の 夢あたらしく 花咲けよ

ここに歌われる「歴史はふりず」とは、あの日の出来事が決して色あせることなく、今を生きる私たちに語り続けている

という意味であろう。

「平和の鐘は鳴りつづく」——この言葉は、単なる理想ではない。過去の犠牲の上に立つ私たちに託された、使命そのものである。

後輩の若者たちよ。今回の甲子園出場は、「文武両道」の歩みを積み重ねた努力の結実であり、その姿に深い敬意を抱いている。かけがえのない青春に情熱を注ぎ、この閉塞感漂う時代を乗り越え、「平和の鐘は鳴りつづく」希望の世界を築いていってほしい。彼らこそが新たな平和への道を切り拓いてくれると信じている。

だからこそ、私たちワイズメン一人ひとりもまた、傍観者であってはならない。今こそ、信念と愛をもって行動する時である。平和は祈るだけで与えられるものではなく、日々の関わりの中で築かれていくものであると信じていたい。

ワイズ・YMCAの使命に生きる私たちは、人と人をつなぎ、理解と信頼を育み、分断ではなく共生へと導く働きに仕える者でありたい。

あの日から、長崎で鳴り続けている「平和の鐘」を、今を生きる私たちの行動によって、世界へと響かせていこうではありませんか。

YMCA 職員 長田、中台、山下、入倉、池田、阿部、石川、添谷

ビジター：兵藤（鎌倉）、鈴木（横浜つづき）、坂口（同）

以上22名

古田ワイズの司会で開始。齋藤会長により開会点鐘と挨拶があり、次いで、ワイズソングを共に歌い、ワイズの信条を唱和する。今月の聖句は古賀ワイズから「わたしたちの主イエス・キリストの父である神が、ほめたたえられますように。神は豊かな憐れみにより、わたしたちを新たに生まれさせ、死者の中からのイエス・キリストの復活によって、生き生きとした希望を与え、また、あなたがたのために天に蓄えられている、朽ちず、汚れず、しぼまない財産を受け継ぐ者としてくださいました。」（ペトロ1：3-4節）が読まれ、短い解説ののち祈りがささげられた。ゲストは卓話をしてくださるNPO法人美しい港町横濱をつくる会の加藤会長以下3名、日頃同会活動に参加しているYMCA職員8名、ビジターは2クラブから3名が齋藤会長により紹介された。総勢22名の例会となり、久しぶりの大人数での嬉しい例会となった。続いて、メインイベントの卓話となり、まず、佐竹ワイズから加藤会長以下、来場の3名が改めて紹介され、加藤会長による「NPO法人美しい港町横濱をつくる会の設立の経緯及び活動の意義」と題したお話を伺った。

概要次の通り。

美しい港町横濱をつくる会は、2009年7社20名で創設された。2010年から5月、9月定期的に町の清掃活動を開始した。2014年からは本格的に清掃活動を行い、2015年NPO法人格を取得した。その後、順調に活動は広がり、現在の会員企業数は120社に及んでいる。そして今は、認定NPO法人格取得を目指している。認定NPO法人となると寄付金の税額控除が認められるので、寄付金を集めやすくなることが期待される。この活動を通して企業同士の付き合いも増え、若い人が子供を連れて参加してくれており、清掃活動だけでなく、学習会の開催も行うようになってい。外国人が多い横浜だが、ゴミ箱がないけれどもゴミ一つ落ちていない、きれいな街並みが誇りである。今後とも、この運動に賛同し参加される市民の皆さんを巻き込んで活動をさらに広げていきたい。加藤会長のお話の後、運動の広がりがどうして成し遂げられたかなどいくつかの質問が寄せられ、理解を深め合った。

卓話の後、ブリテン5月号執筆者の確認などを行った。次いで、ハッピーバースデーだが、出席者に該当者はなかった。定刻齋藤会長の点鐘で閉会した。

<2026年4月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F	
10名	メン 8名 メネット 0名 コメント 0名 ビジター 3名 ゲスト 11名 合計 22名	80% (メキャップ0名) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 現金 年度累計 切手 現金	0g 0円 0g 0円

<5月の行事>

LT ユース

日	曜	時間	行事内容	場所
16	土	10:00-15:00	かながわ部三浦YMCA例会兼第一例会	三浦エコ・ビレッジ
27	水	11:30-12:00	第二例会	Zoom
30	土	14:00-17:00	横浜YMCA会員総会	とつかY

第一例会報告

古田 和彦

日時：4月9日（木）18：30～20：00

場所：中央YMCA 812教室

出席者：秋元、大高、古賀、齋藤、佐竹、菅原、田口、古田

ゲスト：加藤和之氏（卓話者・NPO法人美しい港町横濱をつくる会会長）、森優子氏（同会事業委員長）、一瀬透氏（同会事務局長）



2026 年度横浜中央 YMCA
キックオフミーティング参加報告

秋元 美晴

日時：4月3日（金）15：00～17：15

場所：横浜中央 YMCA6 階606 教室

参加者：横浜中央 YMCA 運営委員/横浜ワイズメンズクラブ/横浜中央 YMCA リーダースペシャルオリンピックス日本・神奈川/すまいサポートセンター/横浜中央YMCA各部門スタッフ/中区地域子育て支援拠点のんびりんこスタッフ 39名

専門学校スタッフ山下忠司さんの司会で開始されました。開会礼拝に続いて、オリエンテーションとスタッフ以外で参加している各団体が紹介され、参加者がそれぞれ団体の活動について説明しました。

長田光玄館長から、新年度開始に当たって①横浜YMCA VISION2034に基づく2026年度活動方針と活動計画と②メンバーシップ・バイ・デザイン（YMCAは会員組織であり、プログラム参加者から担い手会員になっていただく）の取り組みが示されました。次のグループディスカッションでは、11月3日に開催されるウエルカムフェスタが中央Y各部門、団体を超えてどのような協働ができるかを、7つのグループ（①ウエルカムフェスタ②ユースカンファレンス③ファミリープログラム④BAPY基金⑤ふれあいサロン⑥リーダー・スタッフ交流会⑦中高年余暇活動）に分かれて、アイデアを出し合い、実行することをまとめ、それぞれ発表しました。

閉会礼拝で、祈禱を捧げて閉会しました。横浜クラブ参加者：秋元、菅原

清掃活動

齋藤 宙也

日時：2026年4月14日（火）8：30～9：30

会場：ベイスターズ通り周辺

出席者：齋藤、古田、秋元、菅原、佐竹

昨年10月、美しい港町横浜をつくる会主催の一斉清掃活動に参加した。これを受け、今年4月の例会では、同会の加藤会長から、同会の歴史について卓話していただいた（詳しくは別記事参照）。これと前後して、4月に再度地域の清掃活動があったため、YMCAの職員らとともに参加した。

今回は、ベイスターズ通りを、二手に分かれて担当した。目に見えるところにおけるポイ捨ては、ほぼなくなっている。しかし、植え込み（特に車道側）にはまだ相当のごみが残されていたほか、路上で固着したガムの食べ残しや、雨でぬれて半分くらい残ってやはり固着しているたばこの吸い殻など、拾うのに一苦労するごみはまだたくさんある。ほかにも、落ち葉と一体となってしまっていて分解されずにいる、たばこの包装ビニールも、小さいが見逃せなかった。これらを真面目に引きはがしていたら、タイムアップになってしまった。

拾うのは大物に絞るという考え方もあるであろうが、美観確保という観点からはやはり不十分である。しかし、ベイスターズ通りだけでも小物まで回収するのにかなりの時間を要するから、まだまだ多数ある通りで同様のことを行うとなると、気の遠くなる作業となる。

ボランティア活動でもある中で、どこまで完璧を求める

か、考えさせられる清掃活動であった。

近況

佐竹 博



小学生の時、食塩を飽和濃度まで水に溶かす実験をしました。水を入れたビーカーを持ち、ガラス棒で混ぜながら、塩が解けなくなる限界「飽和濃度」を目指して、ただひたすら塩を入れては混ぜるという実験でした。先生が「ガラス同士だから割れるよ」「丁寧に、気を付けて」と声をかけてくれていました。最初はそういわれるとちょっと怖くなって、遠慮気味に丁寧に混ぜていたのですが、溶け続ける塩、そしてさらに塩を投入、という塩を入れる回数を重ねこの作業を繰り返しているうちにだんだん慣れてきたのか、気が緩んだのか、ガラス棒がビーカーにあたってカチカチ音を鳴らしても気にならなくなっていました。何度かあたりましたが割れませんでしたし、きっと「このくらいなら大丈夫」と思っていたのかもかもしれません。

各自の作業には個人差があり、そのスピードにも差がありました。ある子は、投入する塩のグラム数を測りメモして投入、そして混ぜる。私は最後に残った量を引けば投入した量がわかるので、いちいち測りませんでした。混ぜ方にも個人差があり、同じ作業でも慎重にビーカーとガラス棒が当たらないようにする子もいれば、早く溶けるように多少のカチカチ音に気を留めず勢い良くかき混ぜる（私）など個人差がありました。競争していたわけではありませんが、早く終わらせて結果が知りたかったのと、自分のやり方が一番と証明したい気持ちもあったのだと思います。だいたい塩を入れて、溶けにくくなったのか、投入する量を少なくし始めた時でした。

ゴールは近いと感じ始め、ゴール後の（飽和量が分かった後の）自分の振る舞いや、浸れるであろう優越感などを想像しながら混ぜていた時、突然ビーカーが割れてしまいました。あたりは水浸し、頭は真っ白、右手に残った欠けたビーカーの一部は、先生が危ないからと取り上げ、その場から離され、片付けもせず、茫然と立っていたように思います。そのあとどう取り繕ったか記憶にありません。ガラスですのである一点にダメージが蓄積して割れたわけではないでしょうから、同じ力がかき混ぜていたと思っていた私の混ぜるある一撃が、ビーカーが割れるほどの力となってしまったのだと思います。油断と慎重さを欠いた結果でした。

この記憶はなぜか忘れることができません。仕事やプライベートにかかわらず、順調と思える時に、ふと思い出します。そんな時は冷静になることができます。そして回避できた機器もあったかと思えます。また、順調の実感がない時にふと思い出すこともあります。そんな時は、周囲を見渡し、思いを巡らせ、慎重に、点検と検証をすることがあります。それもきっと何かを回避できていたのかと思えます。

そのおかげか、今のところあの意気揚々から一転、茫然自失への転落までのことは味わっていません。50年前のあの出来事を思い出すふとした瞬間が、聖霊の働きなののでしょうか。この

原稿を書く時にふと思い出したのでした。

イースター早天礼拝
6日 みどりクラブ
29日 ヘルシーキッズ&ファミリーデー

第二例会報告

秋元 美晴

日時 ; 2026年4月22日(水)11:30~12:15
出席者 ; 秋元、大高、古賀、齋藤、菅原、古田
場所 ; ZOOM
古田副会長のお祈りに続いて開始。

1、行事予定の確認

4月22日(水)から7月23日(木)までの確認

2、協議・報告事項

(1) 例会計画

- 5月16日(土) かながわ部三浦YMCA 例会(当会の第一例会を兼ねる) 会費:5000円
- 6月11日(木) 第一例会 総会準備
総会資料は5月末日までに準備する。6月分は

後で

加える。資料作成担当者は第二例会資料の通り

- 新年度の7月9日(木) 総会・佐藤部長訪問
- 8月27日(木) 納涼例会(18時~20時) ロイヤルホール横浜を予定

(2) 第29回東日本区大会

6/5(金) 18:00 前夜祭
6/6(土) 10:00 代議員会 13:00 大会
6/7(日) エクスカーション
参加者: 秋元、大高、古賀、齋藤、佐竹、菅原、(田口)

(3) ブリテン6月号編集計画(別添参照): 第二例会報告は、大高ワイズに変更。

5月例会プログラム

日時: 5月16日(土) 10:00~15:00
場所: 三浦YMCA グローバル・エコ・ヴィレッジ
内容: キャンプソング
バーベキュー
卓球大会・ビーチボールバレー

例会報告 古賀ワイズ

6月の行事予定

日	曜	時間	行事内容	場所
2	火	19:00-20:30	第114回YMCA-Ys協議会	中央Y
5	金		東日本区大会(石巻)	石巻
6	土			
11	木	18:30-20:00	第一例会	中央Y
27	土	14:00-14:30	第二例会	中央Y
		15:00-17:00	かながわ部第3評議会	

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 菅原歩にご連絡下さい。

メール sugahara_ayumu@yokohamaymca.org
電話 045-307-7556



担当主事 菅原 歩

4月になり、新しい季節とともに入学、進級した子どもたちも元気に活動をしています。

私の子どもは今年の4月から小学生と中学生になり、ダブル入学式でした。上の子が小学生になったときはコロナ入学式となり、入学式後しばらく学校がお休みになり、6月頃から再開したときには学校に行きたがらなかったことを覚えています。下の子の小学校入学式の際にそのことを思い出し、もうあれから6年も経ったのかと思います。

どのような状況になっても、子どもたちにはたくさんの居場所をつくり、様々な体験を行うことで周りの人との関係性を豊かにする力を身に付けてほしいと願っています。

4月

- 1日 2026年度職員入会・始業式
- 4日、5日 横浜朝鮮初級学校、川崎朝鮮初級学校、南部朝鮮初級学校 入学おめでとう応援隊
- 5日 横浜YMCA/横浜YWCA 合同

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★